

2017年5月16日

**I. 平成28年度 事業報告**

社会福祉法人 ユウの家

障害福祉サービス事業

1、指定就労継続支援B型 アトリエユウの家

所在地	堺市堺区神保通3番7号	
利用定員	20名	(実利用者 20名)
職員数	管理者	1名(兼任)
	サービス管理責任者	1名(専任)
	生活支援員	2名(常勤 2名)
	職業支援員	2名(常勤 1名、非常勤 1名)
	目標工賃達成指導員	1名(常勤 1名)
事業開始	平成25年4月1日	

(1) 利用者の状況

- ・引き続き、一人ひとりが自立し、安心して地域で生活が送れるよう、仕事に対する姿勢、意欲を育てることに重きを置き、利用者たちの頑張りを様々な場面を通して地域の人たちに知ってもらうことに努めた。
- ・利用者一人ひとりの障害の程度や出来る作業は異なるが、個々の適性に合った作業を割り振り、利用者が協力し合いながら作業をやり遂げることで仕事の達成感や一体感を持つことができた。また出来ることを一つでも増やし、利用者自身の自信へと繋がる姿が見られた。
- ・各々が、その日の作業予定表を確認し作業に取り組む姿勢が見られ、利用者の自主性が伺えた。
- ・個人差はあるものの、人との関わり方や協調性、思いやり等、社会生活に必要なことが少しずつ出来るようになり、成長している姿が見られた。
- ・目標工賃達成に向け、自主製品の販路開拓、製造や内職の作業能力の向上による生産高の増加等、利用者、職員一丸となって授産事業を積極的に行った。

(2) 授産事業及び企業受託の状況

- ・平成28年度の計画目標を目指し、積極的な姿勢で取り組んだ結果、目標以上の数字を達成することができた。

<自主製品の製造販売>

- ・パン・焼き菓子等の製造販売を中心に、府庁「まちのパン屋さん」での販売を

はじめ、老人施設や企業での出店販売を行った。

- ・ かねでんエルハートを通して、関電ビル及び関電病院等に販売ができ、定期的にクッキー、ラスクの注文を受けた。
- ・ さかい利晶の杜での「古墳ラスク」「クッキーセット」等の委託販売も評判は好評であり、注文問い合わせを数件得ることができた。

#### <企業の受託事業（灌水、内職）>

##### 1) 灌水

- ・ (株) かねでんエルハート 施設外就労  
灌水、除草、花摘み等の日常管理  
→施設外の作業で、作業指導だけでなく、外部の人たちとの挨拶等を通じて社会性を身につけるための支援を継続した。

##### 2) 内職

- ・ K 2 パッケージ                      チョコレート菓子の内職
- ・ 阪南倉庫(株)                          キャンプ用品やカー用品の値札の貼り付け等
- ・ (有)フジマサ                          カーテンフックの封入
- ・ (株)くらコーポレーション      ビックらポンの封入
- ・ (株)山本紙業                          紙製品の内職
- ・ (株)鷹雅堂                            国産のゴマや唐辛子、七味等の食品の内職

以上、利用者の仕事の振り分けや作業段取り等は、日々職員会議を開き、利用者に応じた支援ができるよう検討を重ねた。職員全員が利用者の状況把握や振り返りを頻回に行い、適宜、利用者の状況に応じた支援を提供するように努めた。

#### (3) 利用者の生活支援

- ・ 利用者の自立に向けた生活に関する支援や、身辺自立の指導に関する支援を行った。指定計画相談事業所へ繋げ、更なる地域での自立生活に向け支援を行った。
- ・ 精神面での支援にも気を配った。頑張りすぎたり、無理をし過ぎたり、ストレスを感じ過ぎたりする状況に陥らないよう、また、いつも楽しむことを意識した活動が行えるよう支援を行った。
- ・ 余暇活動についての支援や助言を行った。長居スポーツフェスタに全員参加し、仲間意識の向上及び健康増進に繋げることができた。
- ・ 絵画クラブ (atelier-you) で、油絵や水彩・パステル画などの作品の制作を行った。今年度も公募展などで賞を頂く機会に恵まれ、受賞の喜びが次の作品への制作意欲、作業意欲へと繋がった。
- ・ 平成 29 年 2 月初旬に、第 1 4 回「ユウの家絵画展」を開催した。一般市民への

啓発活動を図ると共に、障害児・者の生きがいに貢献することができた。また、来場者の年齢層も幅広く、一般市民に対して障害児・者への理解と交流を深めることができた。

- ・アトリエ・ワークス合同で、毎年恒例のユウの家旅行を開催できた。長野県は駒ヶ根岳にロープウェイで登り、夜は昼神温泉で宴会を楽しんだ。社会生活支援の一環として行い、事前に配布したしおりをもとに、旅行の準備や集合場所の確認をし、旅行先ではお土産の買い方、団体行動におけるあり方等の支援を行った。

#### (4) 健康管理

- ・毎日朝会にて体調の確認を行った。  
→体調の自己申告、スタッフによる聞き取り等により、各々の体調を確認した。
- ・年1回の健康診断(7月)。  
→健康上問題となる事例は認められなかった。
- ・インフルエンザの予防接種(11月)を実施した。
- ・週1回の歯磨き指導を継続した。
- ・3ヶ月毎に歯科の定期検診と治療を継続した。
- ・衛生・安全指導の一環として、「感染予防等の周知について」を関係者間で情報共有し、朝会にて注意喚起および予防を徹底した。
- ・毎日終礼にて、身だしなみ、手洗い指導を徹底した。

#### (5) 就労支援

- ・就労に向けて、まずは基本生活の身辺自立に焦点をあてた指導支援を行った。
- ・就労に向けて、労働意欲や集中力をつける支援を行った。
- ・就労した人に対して、継続した定着支援を行った。

#### (6) 防災訓練

- ・防災(避難)訓練実施(2回):平成28年6月1日(水)、平成28年9月5日(月)  
⇒大規模地震発生を想定した訓練をワークスと合同で2回実施し、健康福祉プラザに徒歩で避難した。事前に保護者にもお知らせし、伝言ダイヤルを通じて避難の状況を聞いてもらった。

実施前には職員で訓練内容や対応方法等を検討し、実施後には反省点を話し合った。

- ・安井校区の防災訓練に全員参加:平成28年12月11日(日)
- ・少林寺校区の防災訓練に全員参加:平成29年2月19日(日)

⇒消火器やAEDの使い方の指導を受け、実際に使用してみたり、東北大震災や熊本地震からの教訓の話を聞いたり、簡易担架や簡易トイレの作り方の指導、火災

の煙体験等をした。

(7) 地域とのかかわり

- ・自治会に加入し、地域との関わりを多く持てるよう努めた。
- ・校区の自治連合会の美化運動、文化祭等に積極的に参加した。
- ・自主製品の製造販売を通じ、地域との関わりを大切に活動に努めた。

以上

## 2、指定就労継続支援B型 ワークスユウの家

所在地	堺市堺区八千代通1番3号	
利用定員	20名 (実利用者 9名)	
職員数	管理者	1名 (兼任)
	サービス管理責任者	1名 (専任)
	生活支援員	1名 (常勤 1名)
	職業支援員	3名 (常勤 1名、非常勤 2名)
	目標工賃達成指導員	1名 (常勤 1名)
事業開始	平成25年4月1日	

### (1) 利用者の状況

- ・昨年度に引き続き、一人ひとりが自立し、安心して地域で生活が送れるよう、仕事に対する姿勢、意欲を育てることに重きを置き、利用者たちの頑張りを様々な場面を通して地域の人たちに知ってもらうことに努めた。
- ・利用者一人ひとりの障害の程度や出来る作業は異なるが、個々の適性に合った作業を割り振り、利用者が協力し合いながら作業をやり遂げることで仕事の達成感や一体感を持つことができた。また出来ることを一つでも増やし、利用者自身の自信へと繋がる姿が見られた。
- ・各々が、その日の作業予定表を確認し作業に取り組む姿勢が見られ、利用者の自主性が伺えた。
- ・個人差はあるものの、人との関わり方や協調性、思いやり等、社会生活に必要なことが少しずつ出来るようになり、成長している姿が見られた。
- ・アート雑貨商品の制作に取り組み、自らが携わった作品が商品として販売されることが、嬉しさや自身へと繋がり、前向きに作業に取り組む姿が見られた。

### (2) 授産事業及び企業受託の状況

<企業の受託事業(清掃、内職)>

#### 1) 清掃

- ・(株)セラ 施設外就労  
パーキング清掃  
→施設外の作業で、作業指導だけでなく、外部の人たちとの挨拶等を通じて社会性を身につけるための支援を継続した。  
→平成28年度は10ヶ所で実施することができた。
- ・聞蔵寺 施設外就労  
境内墓地の除草及び清掃  
→パーキング清掃同様、外部の人たちと接する機会となっている。お墓参りに

来られた方に「きれいにしてくれて、ありがとう」等、声をかけてもらうこともあり、作業の励みになった。

→境内や枯れた花の清掃をこまめに行うことで、1年を通してきれいな状態を保ち、依頼主の信頼を得ることができた。

## 2) 内職

### ・河中堂 施設外就労

菓子の封入作業を中心とした内職を受託

→施設外の作業であり、外部の人たちとの挨拶等を通じて、社会性を身につけるための支援を継続した。

→当初は作業に時間を要していたが、繰り返し作業を行ってきた事により、今ではスムーズに作業ができるようになった。

### ・ヨーケン サインペン、ボールペン等の内職を受託

→利用者全員が可能な作業であり、皆にとって最も楽しい内職となっている。

### ・フジカワパックメイト 野菜の封入、パックのシール貼り

→当初は計量ミス、数量ミス、シールの貼り間違い等、やり直しをすることも多かったが、ミスが起きる度に原因を追究し、次回の作業に教訓を活かすことでミスが減り、作業をどんどん任せてもらえるようになった。

→協力し合わないと仕事がやり遂げられないことから、各々ができることを精一杯するようになり一体感が生まれ、作業の達成感を一緒に味わうことができた。また、立ち仕事をすることで体力もついた。

以上、利用者の仕事の振り分けや作業段取り等は、日々職員会議を開き、利用者に応じた支援ができるよう検討を重ねた。職員全員が、利用者の状況把握や振り返りを頻回に行い、適宜、利用者の状況に応じた支援を提供するように努めた。

## (3) 利用者の生活支援

- ・利用者の自立に向けた生活に関する支援や、身辺自立の指導に関する支援を行った。指定計画相談事業所へ繋げ、更なる地域での自立生活に向け支援を行った。
- ・精神面での支援にも気を配った。頑張りすぎたり、無理をしすぎたり、ストレスを感じ過ぎたりする状況に陥らないよう、また、いつも楽しむことを意識した活動が行えるよう支援を行った。
- ・余暇活動についての支援や助言を行った。長居スポーツフェスタに全員参加し、仲間意識の向上及び健康増進に繋げることができた。
- ・絵画クラブ (atelier-you) で、油絵や水彩・パステル画などの作品の制作を行った。今年度も公募展などで賞を頂く機会に恵まれ、受賞の喜びが次の作品への制作意欲、作業意欲へと繋がった。
- ・平成 29 年 2 月初旬に、第 14 回「ユウの家絵画展」を開催した。一般市民への

啓発活動を図ると共に、障害児・者の生きがいに貢献することができた。また、来場者の年齢層も幅広く、一般市民に対して障害児・者への理解と交流を深めることができた。

- ・アトリエ・ワークス合同で、毎年恒例のユウの家旅行を開催できた。長野県は駒ヶ根岳にロープウェイで登り、夜は昼神温泉で宴会を楽しんだ。社会生活支援の一環として行い、事前に配布したしおりをもとに、旅行の準備や集合場所の確認をし、旅行先ではお土産の買い方、団体行動におけるあり方等の支援を行った。

#### (4) 健康管理

- ・毎日朝会にて体調の確認を行った。  
→体調の自己申告、スタッフによる聞き取り等により、各々の体調を確認した。
- ・年1回の健康診断(7月)。  
→健康上問題となる事例は認められなかった。
- ・インフルエンザの予防接種(11月)を実施した。
- ・週1回の歯磨き指導を継続した。
- ・3ヶ月毎に歯科の定期検診と治療を継続した。
- ・衛生・安全指導の一環として、「感染予防等の周知について」を関係者間で情報共有し、朝会にて注意喚起および予防を徹底した。
- ・毎日終礼にて、身だしなみ、手洗い指導を徹底した。

#### (5) 就労支援

- ・就労に向けて、まずは基本生活の身辺自立に焦点をあてた指導支援を行った。
- ・就労に向けて、労働意欲や集中力をつける支援を行った。
- ・就労した人に対して、継続した定着支援を行った。

#### (6) 防災訓練

- ・防災(避難)訓練実施(2回):平成28年6月1日(水)、平成28年9月5日(月)  
⇒大規模地震発生を想定した訓練をワークスと合同で2回実施し、健康福祉プラザに徒歩で避難した。事前に保護者にもお知らせし、伝言ダイヤルを通じて避難の状況を聞いてもらった。

実施前には職員で訓練内容や対応方法等を検討し、実施後には反省点を話し合った。

- ・安井校区の防災訓練に全員参加:平成28年12月11日(日)
- ・少林寺校区の防災訓練に全員参加:平成29年2月19日(日)

⇒消火器やAEDの使い方の指導を受け、実際に使用してみたり、東北大震災や熊本地震からの教訓の話を聞いたり、簡易担架や簡易トイレの作り方の指導、火災

の煙体験等をした。

(7) 地域とのかかわり

- ・自治会に加入し、地域との関わりを多く持てるよう努めた。
- ・校区の自治連合会の美化運動、文化祭等に積極的に参加した。
- ・自主製品の製造販売を通じ、地域との関わりを大切にした活動に努めた。

以上

### 3、指定生活介護 チャレンジハウスどんどん

所在地	堺市中区深井中町1923番2)	
利用定員	20名(実利用者 21名)	
職員数	管理者	1名(常勤)
	サービス管理責任者	1名(常勤)
	生活支援員	7名(常勤4名、非常勤5名)
	看護職員	1名(非常勤)
	医師	1名(嘱託)
	調理員	1名(非常勤)
	運転手	1名(非常勤)

#### (1) 利用者の状況

- 平成28年4月、新卒者2名を新たに加え21名でスタートした。
- 平均介護区分は、前々度4.56、前年度は4.85、  
重度割合(区分5・6の利用者)は、前々度47.96、前年度59.66と共に重度化した。
- 計画相談契率は昨年度7割から8割に増加し、通院、運動、余暇活動等、外部支援の利用が増えている。
- ショート事業は全体の8割が利用していて、家族負担軽減と地域生活の安定につながっている。

#### (2) 授産事業

- 前々年度から請負契約した業者に安定して納品できていることから契約を継続。また新たに請負業者と契約し、滞ることなく内職作業を継続、利用者に安定して工賃を分配することができている。
- 創作活動の中で出来上がった作品を中区障がい者自立支援協議会に主催する定期バザー(ナカナカマ)にて販売予定であったが、支援員配置が困難な為、出展せず。

#### (3) 利用者への生活支援

- 前年度から2名増員された事と重度区分割合が増したことで、排泄を含む身辺処理支援・活動支援が増加した。
- 活動支援と日常動線混乱を予測し、メンバーの障害特性や関係性を考慮して班編成(1班10名前後の2班体制)して支援を行った。
- 新卒メンバーには事業所利用の生活リズムに慣れることを優先目標と設定し、不安を予測しながら新しい環境や関係性への馴染みを中心に支援し、既存利用者へは新しい利用者との関係性を構築できるようグループでの作業や活動を勧めながら環境変化と

対人関係変化による振れが大きくなるように精神サポートを中心に支援した。

- 日中の全体への支援は、
  - 挨拶や返事、お礼等を表出するように誘導して、コミュニケーションの発展を促進。
  - 人格や障害特性・好みに応じた対応
  - 現在心身状況に適した対応と介助
  - 移動・動作の介助と配慮
  - 自力発揮誘導とその工夫、必要な身辺処理介助
  - 金銭理解・管理・使用への援助と介助、投薬管理
  - 活動・作業の参加支援
  - 状況対応や自己表出の援助と介助
- 野外活動では、季節やイベントを楽しめるよう意識し、余暇活動を支援した。

#### (4) 健康管理

健康クラブの開催（週 1 回）、夏季は水遊びを取り入れ、その他の季節は歩行運動やゲーム等を取り入れて心肺機能と脳機能活性化が図れるよう構成配慮し、加えて重複障害利用者に対して、機能低下による 2 次 3 次障害予防の為のリハビリ活動（週 2 回）を継続、他利用者へは昼休み時間を活用して運動クラブ（週 2 回）を提案して身体機能維持・向上を促進した。

- 体重測定（月 1 回）、検温（登所時）、バイタルチェック（検温・血圧・脈拍…週 1 回）を実施し、体温変化による疾病を予見したり、急激な体重変化をいち早く察知して保護者と連携しながら食生活を含む生活状況把握及び生活指導と健康維持を支援。
- 心身機能維持向上の為の運動（歌クラブ・体操・ダンス）では、心肺機能向上を鍛錬。
- 衛生指導（手洗い、歯磨き指導等・・・不定期）
- インフルエンザ予防接種（平成 28 年 11 月）
- インフルエンザ流行情報を察知した際には、昼食前の検温を追加して体温変化を把握、マスク着用誘導と手洗い強化・徹底して各利用者の自宅様子を含んだ心身状態を把握の上、体調不良者へは受診や休所をお願いして感染症拡大を予防した。また常々よりトイレ・椅子・手すりなどの消毒を徹底し、様々な感染症予防に努めた。

#### (5) 防災避難訓練等

- 避難訓練（平成 28 年 10 月）
- 設備（火災報知機・ガス警報機・消火器・誘導灯）を点検。

以上